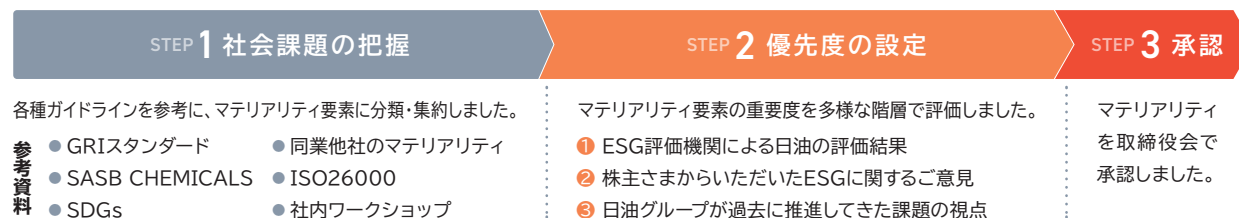


マテリアリティ

11項目のマテリアリティ(重要課題)を特定

マテリアリティ特定プロセス

2020年に、日油グループは「NOF VISION 2025」(2019年策定の中期経営計画)のありたい姿を実現するために、優先的に取り組むべきESGの重要課題を次のプロセスで選定しました。



重要課題の具体的な展開

日油グループでは特定した11項目のマテリアリティを、3つのカテゴリーに分類して具体的な事業活動に紐づけて活動を展開しています。マテリアリティの各項目には主管部門・担当部門を定めて、それぞれの課題に指標と目標(KPI)を設け、取り組んでいます。

① 豊かで持続可能な社会実現のための新たな価値の提供

目指す3分野に向けて、多岐にわたる事業展開のなかで培ったコア技術の組み合わせにより、新しい価値の提供を目指します。

📖 ▶ P.017,066-069



② 事業基盤の強化

価値観の多様性を受け入れる企業風土を築き上げるとともに、環境の変化、技術の進歩を適切に捉え、レジリエンスを高めていきます。

📖 ▶ P.018,070-079



③ レスポンシブル・ケア活動の推進

製品の開発、製造から廃棄まですべての過程において、「環境・安全・健康」を確保することで、社会全体から信頼される企業グループを目指します。

📖 ▶ P.019,080-103



マテリアリティ | KPI

① 豊かで持続可能な社会実現のための新たな価値の提供

マテリアリティ	目標 (KPI)	2024年度				2025年度			
		目標値	目標年	実績	主な取り組みの内容	目標値	目標年	実績	主な取り組みの内容
事業を通じたイノベーション	  研究開発投資額 	256億円 (3年間累計)	2025年	79億円 2年間累計 152億円(達成率59%)	研究開発力の強化 - 産学委託研究公募 - 共同研究の推進 - 研究開発支援強化 - 知財戦略策定と戦略出願	256億円 (3年間累計)	2025年		研究開発力の強化 - 産学委託研究公募 - 共同研究の推進 - 研究開発支援強化 - 知財戦略策定と戦略出願
	  特許出願件数 	500件 (3年間累計)	2025年	221件 2年間累計 382件(達成率76%)		500件 (3年間累計)	2025年		
ライフ・ヘルスケア分野への貢献	  ライフ・ヘルスケア分野への戦略製品※の売上高 	15%UP (対2022年度実績)	2025年	11.7%UP	戦略製品のライフ・ヘルスケア分野への供給	15%UP (対2022年度実績)	2025年		戦略製品のライフ・ヘルスケア分野への供給
環境・エネルギー分野への貢献	     環境・エネルギー分野への戦略製品※の売上高 	15%UP (対2022年度実績)	2025年	43.7%UP	戦略製品の環境・エネルギー分野への供給	15%UP (対2022年度実績)	2025年		戦略製品の環境・エネルギー分野への供給
電子・情報分野への貢献 (スマート社会)	  電子・情報分野への戦略製品※の売上高 	15%UP (対2022年度実績)	2025年	15.6%UP	戦略製品の電子・情報分野への供給	15%UP (対2022年度実績)	2025年		戦略製品の電子・情報分野への供給

※ ありたい姿に掲げる目指す3分野（ライフ・ヘルスケア、環境・エネルギー、電子・情報）に関する製品の中で、顧客満足を追求し、新しい機能・技術を盛り込んだ他社より優れた製品、あるいは、将来の事業部門の中核を担う商品として育て上げたい製品

マテリアリティ | KPI

② 事業基盤の強化

マテリアリティ	目標(KPI)	2024年度				2025年度		
		目標値	目標年	実績	主な取り組みの内容	目標値	目標年	主な取り組みの内容
働きやすい 職場づくり ・エンゲージメント	 年次有給休暇取得率	75%以上 日油	2025年	79.1%	●健康経営宣言周知による意識付け	75%以上 日油 国内連結5社	2025年	●健康経営宣言周知による意識付け
	 総合エンゲージメントスコア 日油	50.0以上	2025年	50.0	●エンゲージメント調査を起点とした施策の実行	50.0以上	2025年	●エンゲージメント調査を起点とした施策の実行
人材の活躍 ・人材育成 ・ダイバーシティ	 人材育成投資(研修費用) 日油	2.5倍以上 (2022年度比)	2025年	2.2倍	●人材育成支援の強化	2.5倍以上 (2022年度比)	2025年	●人材育成支援の強化
	 新卒総合職女性の採用比率 日油	30%以上	毎年	38.0%	●計画的採用の実行	30%以上	毎年	●計画的採用の実行
	 女性管理職比率 日油	3倍以上 (2021年度比)	2030年	1.3倍	●計画的採用の実行 ●女性管理職育成、登用	3倍以上 (2021年度比)	2030年	●計画的採用の実行 ●女性管理職育成、登用
	 障がい者雇用率 日油	3.0%以上	2030年	2.65% (2025年3月末)	●障がい者雇用の推進	3.0%以上	2030年	●障がい者雇用の推進
	 正社員男女賃金差異比率	75%以上 日油	2030年	72.6%	●生産箇所などの就労環境整備 ●女性管理職育成、登用	75%以上 日油 国内連結5社	2030年	●生産箇所などの就労環境整備 ●女性管理職育成、登用
	 男性育児休業取得率 日油	100%	2030年	95.7%	●取得しやすい環境整備	100%	2030年	●取得しやすい環境整備
	 経営職・総合職経験者採用比率 日油	25%以上	毎年	47.4%	●計画的採用の実行	-	-	-
CSR調達の推進	 CSRアンケート調査のカバー率(購入金額ベース) 日油	85%以上	2025年	92% (2025中計期間の累計)	●サプライヤーへのCSRアンケート調査実施(購入金額が100万円以上500万円/月未満のサプライヤー)	85%以上	2025年	●サプライヤーへのCSRアンケート調査は2023、2024年度で完了
	 CSR調達の定着化に向けた対象サプライヤーへの面談による改善依頼(会社数ベース) 日油	85%以上	2025年	96% (2025中計期間の累計)	●対象サプライヤーへの面談による改善依頼の(前倒し)実施	85%以上	2025年	●対象サプライヤーへの面談による改善依頼の実施
レジリエンスの向上	 BCP教育訓練時間 日油グループ	のべ 4,000時間 以上	毎年	のべ 7,000時間	●各種BCPマニュアルの充実化 ●訓練シナリオ拡充による対応力向上 ●監査による箇所活動の点検・確認	のべ 4,000時間 以上	毎年	●各種BCPマニュアルの充実化 ●訓練シナリオ拡充による対応力向上 ●監査による箇所活動の点検・確認

③ レスポンシブル・ケア活動の推進

マテリアリティ	目標 (KPI)	2024年度				2025年度		
		目標値	目標年	実績	主な取り組みの内容	目標値	目標年	主な取り組みの内容
気候変動への対応	 CO ₂ 排出量 国内グループ	40%削減 (2013年度比) 2013年度 178.6千トン/年	2030年	132.9 千トン/年	● 低環境負荷エネルギー源への転換推進 ● 省エネ設備の導入推進 ● エネルギー効率的利用と見える化の推進	40%削減 (2013年度比)	2030年	● 低環境負荷エネルギー源への転換推進 ● 省エネ設備の導入推進 ● エネルギー効率的利用と見える化の推進
	 カーボンニュートラル 日油グループ	達成を目指す	2050年	25.3%減 (2013年度比)		達成を目指す	2050年	
ケミカル セーフティ	 2021年度改正 PRTR対象物質排出量 国内グループ	170トン/年 以下	毎年	135トン/年	● 排出量削減施策の創出と実行 ● 製造プロセスの再評価	170トン/年 以下	毎年	● 排出量削減施策の創出と実行 ● 製造プロセスの再評価
労働安全衛生の 推進	 休業災害発生件数 国内グループ	ゼロ	毎年	5件発生	全員参加とリスクの先取りによる ● 危険に対する感性の向上 ● 基本的安全行動の徹底 ● 災害リスクの低減 ● 三現主義に基づく対策の強化	ゼロ	毎年	全員参加とリスクの先取りによる ● 危険に対する感性の向上 ● 基本的安全行動の実践 ● 災害リスクの低減 ● 三現主義に基づく対策の強化

世の中の変化を捉え、日油グループが目指す3つの分野

社会課題

目指す3分野

自動車の電動化を
ビジネスチャンスに

ガソリン車からEVへの移行で、自動車の部品が大きく変わります。ボルトやナットの防錆剤のほか、異音防止のための樹脂用添加剤、LEDヘッドランプ用の防曇剤など、新たな需要が見込まれます。また、洋上風力発電や船舶のスクリューなどで使われる潤滑油は、鉱物油と比べ生分解性が高く環境負荷を低減できます。事業統合やグループシナジーを活かし、環境貢献製品の用途拡大を図ります。

環境・エネルギー
分野

人の健康とQOL

医薬・医療に求められる新しい素材を提供します。また、点眼薬の効用を長持ちさせる添加剤、化粧品のトレンドをいち早く捉えた配合処方、健康ニーズに応えるサプリメント、さらに昨今注目されている代替肉に食感・旨味を加える研究など、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上に貢献します。事業統合のシナジー活用、大学・研究機関との連携による新技術・新製品開発を推進します。

ライフ・ヘルスケア
分野

通信技術の進歩と小型化

電子技術の向上により通信が高速大容量化し、電子部品の小型化、材料の低誘電化が進みます。それに伴い、高感光性材料、電子部品用添加剤、低誘電材料用硬化剤の需要が高まることが見込まれます。事業統合のシナジーを活かし、設計・評価技術を連携した新たな材料開発を推進します。

電子・情報
分野



※ エチレンオキシド・プロピレンオキシド誘導体 (ポリアルキレングリコール誘導体)

マテリアリティ | 目指す分野